

講演会

イギリスと 日本における 額縁の歴史と保存

主催：

独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 保存科学研究センター

独立行政法人国立美術館 国立西洋美術館

参加申込はこちら

申込締切：10月20日



開催日時： 2025年11月1日 土曜日
13:20～16:20（13:00受付開始）

会場： 東京文化財研究所 地下セミナー室

参加方法： 事前申込制（100名先着順）
(<https://forms.office.com/r/65wSMdEYFs>)

参加費用： 無料

交通案内： <https://www.tobunken.go.jp/japanese/navi/map.html>

※講演会の同時配信はございません。後日、記録動画をウェブサイト公開予定です。

開催趣旨

絵画を鑑賞するとき額縁は作品本体と切り離せないものですが、その重要性について日本国内では理解が少なく、またその保存修復に関する情報は非常に乏しいこともあり、これまで美術館関係者の課題となってきました。日本の油彩画の歴史は主に近代から始まり、美術館が所蔵する古い作品は、多くの場合、額縁の中におさめられています。しかし、時代が下るにつれて伝統的な額縁が使われなくなる傾向とも相まって、今日では額縁に関する知識や保存修復に関する情報は手に入りにくい状況にあります。

この度の講演会では、イギリスのヴィクトリア&アルバート美術館で額縁家具修復士としてご活躍されるバロウ由紀子（BARROW Yukiko）氏、近代日本の額縁調査を専門とする東京都美術館の中江花菜（NAKAE Kana）氏をお招きし、額縁の様式や制作技法の変遷、保存修復に関してご講演いただきます。

講演会プログラム

13:00	受付
13:20	開会挨拶（国立アートリサーチセンター作品活用促進グループリーダー 大谷省吾）
13:30～14:20	講演1：バロウ由紀子「絵画を縁取る技と影響ーイギリスの美術館における額縁修復の歴史、修復士の仕事についてと日英のデザイン交流」
14:20～14:35	休憩
14:35～15:25	講演2：中江花菜「明治から大正、昭和へー戦前期の洋風額縁をめぐって」
15:25～15:40	休憩
15:40～16:20	ディスカッション&質疑応答（進行：東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学保存修復油画研究室特任教授 鳥海秀実）
16:20	閉会挨拶（東京文化財研究所保存科学研究センター長 犬塚将英）



バロウ由紀子 BARROW Yukiko

イギリスのウェストディーン・カレッジ(サセックス大学提携)で家具修復を学び、BADA 認定修復士資格および修士ディプロマ(PGDip)を取得。同大学大学院保存研究科を修了。その後、海洋博物館やテート・ギャラリーなどロンドンの主要美術館で額縁修復に携わる。2016 年よりヴィクトリア&アルバート美術館修復課に勤務し、上級修復士として家具、額縁、金箔装飾を専門に活動している。長年の修復技術と保存研究を通じて、文化財保護や美術史理解に貢献している。



中江花菜 NAKAE Kana

東京都美術館学芸員。国立新美術館研究補佐員、東京藝術大学大学美術館学芸研究員を経て、2024 年より現職。大学美術館勤務時代に日本近代洋画の額縁に関する研究を開始、現在は「雑誌広告から見る日本近代における額縁店の総合研究－磯谷商店をモデルケースとして」(日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究C)というテーマで、日本近代の額縁や額縁店という生業の成立について、西洋からの影響と日本独自の発展の両面から研究を行う。

講演概要

講演 1

絵画を縁取る技と影響 －イギリスの美術館における 額縁修復の歴史、修復士の仕事 についてと日英のデザイン交流

本講演では、イギリスの美術館で行われてきた額縁保存・修復の歴史や、修復士の役割について紹介します。実際の現場で扱う絵画と額縁の関わりについても、専門的な技術や経験を交えながら、わかりやすくお話しします。さらに、19 世紀中頃から日本美術がイギリスの額縁デザインに与えた影響や、逆にイギリスから日本に伝わったフレームスタイルについても触れます。普段はあまり注目されない“額縁”を入りに、日英の芸術交流の広がりを楽しんでいただける講演です。

講演 2

明治から大正、昭和へ －戦前期の洋風額縁をめぐって

明治期以降、日本国内では油彩作品が展覧会の場で頻繁に展示されるようになり、作品を壁面に固定するための枠、すなわち「額縁」が必要となりました。西洋へ留学した洋画家たちは、旧来の日本の和風の額縁ではなく、西洋に劣らぬ額縁を求め、その願いに応えるために額縁商が「洋風額縁」を生み出しました。現在、私たちが美術館でよく見かける、日本の洋画を囲む西洋風の額縁は、実は明治期にその礎が作られたのです。この講演では、日本において洋風額縁を作ろうと奮闘した人たちの隠れたエピソードをご紹介しますとともに、初期の洋風額縁が西洋美術からどのような影響を受けて成立、発展したのか実例を交えてご紹介します。

※当講演会は、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団の助成を受けて開催します。

お問い合わせ

独立行政法人国立美術館 国立アトリサーチセンター 作品活用促進グループ
Mail : collections@artmuseums.go.jp